安政地震の瓦版

1854年（嘉永７年：11月安政に改元）は、地震の当たり年だった。理科年表によると、この年に６つの被害地震が記録されているが、12月23日に発生した安政東海地震（震源：北緯34.1°、東経137.8°）と翌24日の安政南海地震（震源：北緯33.2°、東経135.6°）は、ともにM8.4という巨大地震であり、ともに津波を伴った。津波は房総から九州に至る海岸を襲って、甚大な被害を与えた。

この「ち志ん乃辨」という瓦版は、安政地震と、翌年の有名な安政江戸地震（1855年11月11日、M6.9の災害を全国規模で一覧できるように示したものである。

安政江戸地震の後には、地震に関する瓦版が多数出版されたが、中でも地震鯰の俗説にかかわるものが非常に多い。しかし、鯰の前には、地震虫という俗説があり、6～700年も前の建久年間から暦その他の雑書には必ずといっていいほど、地震虫の絵が画かれていたと、この瓦版は次のように解説している。

○俗説にいふ地下に鯰ありその尾鰭を動かす時地これが為に震ふといふ　そのよりどころを詳にせざれど建久九年の暦の表紙に地震の虫とてその形を画き日本六十六州の名を記したり　六七百年以前よりかかる説は行はれき　仏経には龍の所為といふ古代の説はかくの如しと地震考といふ書に記せり　思ふに当時雑書には必この図を載ざる事なくその形もまた鯰にあらず龍に類せる異形のものなり　今またその図をここにかりて寅卯二ヶ年地震津波の災異ありし国々を一眼に見する目的となすのみ

安政地震の被害（理科年表より）

番号	日本暦 西暦	北緯 東経	M	地域・被害摘要
251	嘉永７ XI 4 1854 XII 23	34.1° 137.8°	8.4	東海，東山，南海諸道：家屋倒壊範囲は伊豆から伊勢に至る沿岸と，甲斐，信濃，近江，越前，加賀に及ぶ．津波は，房総から土佐に至る沿岸を襲い，下田で875戸中841戸流失，碇泊中のロシア軍艦ディアナ号大破，27日沈没．波高は甲賀10m，鳥羽５～６m，錦浦６m余，二木島９m，尾鷲６m．御前崎で80～100 cm隆起，浜名湖北端，渥美湾沿岸は沈下した．全体で倒壊流失8300余，焼失600，圧死300人，流死300人．**安政地震**〔３〕
252	嘉永７(安政１) XI 5 1854 XII 24	33.2° 135.6°	8.4	畿内，東海，東山，北陸，南海，山陰，山陽道：前の地震の32時間後．被害は，近畿，中国，四国全部と九州，中部地方の一部に及び，津波は房総から九州に至る海岸を襲った．全壊20000，半壊40000，焼失6000，流失15000，死者約3000人．波高は久礼16.1m，種崎11m，室戸3.3m，宍喰5～６m．室戸，紀伊半島は南上がりの傾動を示し，室戸，串本で1.2m隆起，甲浦，加太で約１m沈下，浸水．**安政地震**〔４〕
255	安政２ X 2 1855 XI 11	35.8° 139.8°	6.9	江戸：江戸とその東，径20kmの範囲に被害大．山手で被害少なく，下町被害大．江戸の被害壊家焼失14346，町人の死4000人余．有感半径500kmに達した．出火30余か所．焼失面積2.3km²．**江戸地震**

注）〔　〕で示した数字は津波の規模で次のとおり．〔３〕波高10～20ｍで，400km以上の海岸線に顕著な被害がある．〔４〕最大波高30ｍ以上で，500km以上の海岸線に顕著な被害がある．

提供　東京大学地震研究所